

第28回 J A 北海道大会 パネルディスカッション

J A 北海道大会で開催したパネルディスカッションでパネリストの方たちから提言頂きました「北海道グループと J A グループに期待すること」を前号に引き続き紹介します。

2 回目の今回は、作家でエッセイストの森久美子さんと北海道農協青年部協議会の黒田栄継氏の提言を紹介します。

美しい農村景観の意味と価値

加工食品の材料にも北海道産

作家・エッセイスト 森 久美子さん



森 久美子氏

(もり くみこ)

作家・エッセイスト

農林水産省・食料・農業・農村

政策審議会臨時委員

北海道農業・農村審議会委員

美しい農村景観を守るため

輪作体系の教育を

景観について考える気持ちをお話したい。以前、写真で見た美瑛町の農村景観にびっくりした。この美しさは農業があるからこそだと気づいた。

東京に住んでいたころ、実家から届いた北海道の野菜をおすそ分けすると、食べてみないうちに「北海道のでしょ、おいしいんだよね」と必ず言われた。

その時、同時に農村景観の美しさや清涼な空気、広大な土地をイメージして買っていると思った。

札幌市民あるいは道民は、当たり前すぎて、農業生産が行われている

からこそ風景だというありがたみが欠けている。「いつまでもあると思うなこの景観」というのは、半分は冗談に聞こえるかもしれないが、かなり本気で思っている。農業が継続されないと、この景観を失い観光客も来なくなり、経済でも北海道は行き詰る。

それではどうすれば良いのか。食農教育の分野で、個人個人は頑張っただけで、農作業のご苦労や農作物のおいしさの話はされるが、案外、輪作体系を教えている機会はほとんどないのではないかと。都会の人たちにも教えて頂きたい。J A の力であればできるのではないかと考えている。

消費者に選ばれる

北海道産入りの加工食品

単身者の世帯数が、全国平均で3割以上ある。生鮮食品に使う食料費が非常に少なくなっており、外食、外食以外の中餐、調理済み食品に食料支出の44%を使っているのが2013年度の統計に出ている。

加工食品を食べている人たちが、どれだけ日本のものや道産のものを意識してくださるか非常に重要。J A グループが一丸となって、「北海道産を使っているカップ麺」とか

表示なり宣伝文句をつけて、その分、仮に外国産の材料より10円高くても買う、という消費者を増やしていかなければならない。

北海道の目指す農業、農村の姿とすることで、550万人と共にいいうことは大変すばらしい。実現できるよう、私たちも消費者の一人でもあるので力になれたらと思っっている。力強いだけでなく、今まで農業を続けられたご年配の方たちが、「自分の人生はこれで良かった」と思うような農村を作ってほしい。力強い農業・農村には、そのことも含んでいることを意識して頂きたい。A コープの買い物支援も含めて地域の人たちを守る、地味だけど J A だからできることをぜひ忘れないでやって頂きたい。

再生産できる価格で買って頂いて農業が続けられ、農村を守るために補助金を出してもらおう。国民のコンセンサスを得られるための啓蒙活動をして頂きたい。

J A グループを含め農家を守ることが、道民の健康や生活を守っていることを分かってもらうようにすることが、サポーターを育てることだと思っ。農業に対する理解がない人たちが、誤解なく農業を理解してくださるようこれからも頑張っ